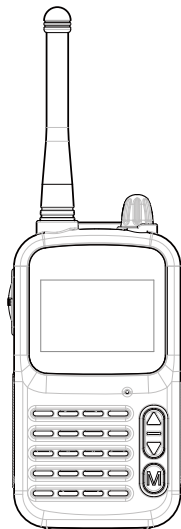


中継機対応 47ch 特定小電力トランシーバー
NX-20R

取扱説明書






この度、NEXTEC NX-20Rをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになった後は、大切に保管していただき、その都度ご参照ください。
本機は、日本国内専用モデルですので、国外で使用することは出来ません。

目次

安全についてのお願い・ご注意	3
通話チャンネル（単信）について	7
NX-20R の便利な機能	8
準備	9
同梱品の確認	9
電池の取り出し／取付	10
充電をする	10
ベルトクリップの取り付け	11
イヤホンマイクの取付	11
各部の名称	12
通話の仕方	13
電源を入れて音量を調節する	13
チャンネルを選択する	13
通話する（単信）	14
通話する（中継機対応チャンネル）	14
電源を切る	15
キーロック	15
チャンネルスキャン機能	15
グループモード機能	16
ハンズフリー機能	16
デュアルウォッチ機能	17
スケルチ設定	18
秘話通話	18
キートーンオン／オフ	19
ラジャートーン	19
オートパワーオフ機能	19
ストップウォッチ機能	20
中継機対応チャンネル	20
FM ラジオ	21
ベルコール機能	22
ベルコール音の設定方法	22
バッテリー残量を見る	23
故障かな？と思ったら	24
周波数表	27
仕様	28

安全についてのお願い・ご注意

本機を安全にご使用いただくには、正しい使い方と安全に関する注意事項をお守り頂くことが必要です。本書では、誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して説明しています。

 危険	この表示は、「人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
 警告	この表示は、「人が死亡または重傷を負うことが想定される内容」を示しています。
 注意	この表示は、「人が傷害を負うことが想定される内容や物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

危険

可燃性ガスの発生する場所で使わない



引火、爆発の恐れがあるので、可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。

■ バッテリーの取り扱いについて



使用にあたり、指定のバッテリー以外は使用しないでください。液漏れ、発火、破裂させる原因となります。



充電温度範囲は5～40℃です。この温度範囲以外では、充電しないでください。



指定された充電器以外で充電しない。



火の中に投入したり、加熱したり、はんだ付けなどしないでください。



液が目に入った時は、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けて下さい。



液が皮膚や衣服に付着した時は、皮膚に傷害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。



電極をショートさせないでください。コインやヘアピン等の金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。



警告

■ 使用環境・条件



交通安全上、運転しながらの交信はおやめ下さい。



電子機器、特に医療機器の近くでは使用しないでください。



航空機内、空港敷地内、新幹線車両内では、使用しないでください。



海外では使用できません。



直射日光を避けて風通しのよい状態でご使用ください。



この製品は調整済みです。分解・改造をしないでください。火災・感電・故障の原因となります。



充電端子をショートさせないでください。



長期間使用しない時は、バッテリーを本体から外して常温で保管してください。

■ 充電機の取り扱いについて



AC100V 以外の電圧で使用しないでください。



タコ足配線はしないでください。加熱・発熱の原因になります。



濡れた手で AC コードのプラグに触れたり、電源コードを抜き差ししないでください。感電の恐れがあります。



水をかけたり、水が入らないように使用してください。

⚠ 注意

■ 使用環境・条件



テレビ、ラジオ、ストーブ、電子レンジなどのそばで送信しないでください。



車内のダッシュボードやヒーターの吹き出し口など異常に温度が高くなる場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。



アンテナを誤って目に刺さないようにしてください。

■ 保守・点検



お手入れの際は、電源スイッチを切り、バッテリーを外して保管してください。



水滴が付いたら、乾いた布で拭き取って下さい。汚れのひどい場合は、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。

お客様または第三者が本製品の誤使用、誤設定、使用中に発生した故障、誤動作、不具合あるいは天災や停電等の外的な要因によって、情報・通信等の機会を逸したために生じた損害等につきまして、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

電波法に関する注意

* 下記の内容は電波法により禁止されています。



本機裏面の技術適合証明ラベルをはがしての使用



本機を分解、改造しての不正使用



他人の通話を聞いてこれに漏らす行為



航空機など、使用を認められていないところでの使用

上記の内容をよく理解して、正しくご使用ください。

ご使用上の注意

- 本機は、特定小電力トランシーバー、9ch 機、11ch 機、20ch 機及び中継機対応 27ch 機のトランシーバーと通話することが可能です。
- 通話できる距離は、環境により大きく変わります。中継機を使用しない場合の目安としまして、見晴らしの良い郊外でおよそ 1 km、市街地でおおよそ 100m です。建物などの障害物により通話距離が大きく左右されます。
- 本機は防水構造になっておりません。雨の日や水がかかるところでの使用は、本体が濡れないように注意して使用してください。
- テレビ、ラジオ、パソコン、蛍光灯のすぐ近くでは、電波障害を与えたり、受けたりすることがありますので、これらのものから離れて使用してください。

特定小電力トランシーバーの規格による制限

●通信時間制限について

特定小電力トランシーバーで連続的に交信する場合は、送信と受信の時間を合わせて、3分間で自動的に送信を停止し、受信状態になります。

3分間の通信時間制限機能により自動停止になったあとの2秒間は送信できません。2秒間経過後は、通常通り交信できます。

●キャリアセンスについて

無線機が通話状態に無い時に、他の無線機から信号を受信中に“PTT”ボタンを押しても、アラーム音が鳴り送信できません。通話状態にある時はこの限りではありません。

通話チャンネル（単信）について

既に本機以外のトランシーバーをお持ちの場合、通話チャンネルを合わせることで、本機と交信することが可能です。

通話チャンネル適合表（中継機未対応の機種）

本機および多数の 20ch 機	11ch 機	9ch 機	他表示タイプの 20ch 機
ch1	ch1		ch1
ch2	ch2		ch2
ch3	ch3		ch3
ch4	ch4		ch4
ch5	ch5		ch5
ch6	ch6		ch6
ch7	ch7		ch7
ch8	ch8		ch8
ch9	ch9		ch9
ch10	ch10		ch10
ch11	ch11		ch11
ch12		ch1	ch h1
ch13		ch2	ch h2
ch14		ch3	ch h3
ch15		ch4	ch h4
ch16		ch5	ch h5
ch17		ch6	ch h6
ch18		ch7	ch h7
ch19		ch8	ch h8
ch20		ch9	ch h9

NX-20R の便利な機能

●中継機対応

中継機を使用して通話をすることで、通信距離が大幅に広がります。

●グループモード

仲間以外の混信を防ぐグループモード

●ハンズフリー機能

“PTT” を押さなくても、マイクに向かって話すだけで自動送信されます。

●低周波出力 0.4W の大音量

騒がしい場所でもクリアに聞こえます

●ストップウォッチ機能

0 - 9 9 秒までのストップウォッチ搭載

●FM ラジオ

FM ラジオ (76.0 ~ 90.0 MHz) を受信可能

●秘話機能

簡易秘話機能がついて、通話の秘匿性が高まります。

同梱品の確認



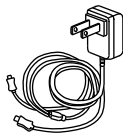
本体 (1 個)



ベルトクリップ (1 個)



取扱説明書



充電器 (1 個)



バッテリー (1 個)

ベルトクリップ、イヤホンマイク、充電器、バッテリーは、オプション品として販売しています。型番は下記の通りです。

ベルトクリップ：NX-20BL

イヤホンマイク：NX-20EM

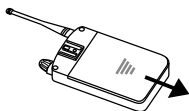
充電器：NX-20BC

バッテリー：NX-20B

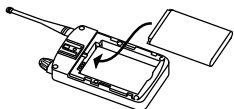
中継機：FC-R1

電池の取り出し／取付

1. リアカバーを下方にスライドさせて、電池カバーを開けます。



2. 電池の端子が本体の端子に接続する位置・向きに電池を入れます。



3. リアカバーをスライドさせて電池カバーを閉めます。

電池に関する注意

- 火の中に投げ込まないでください。
- ショート（短絡）、分解、加熱しないでください。
- 長時間使用しない時は、電池を取り出して保管してください。

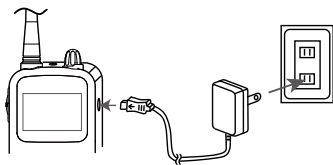
充電をする

はじめて使用されるときは、充電をしてください。

電池を入れた状態で、本体と充電器のUSB充電端子を接続し、充電器をACコンセントに差し込んでください。

およそ、3.5時間で満充電になります。

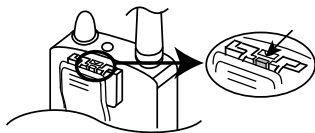
充電が終わったら、それぞれのケーブルを抜いてください。



ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップを本体背面の取付位置に上からスライドさせて取り付けて下さい。

取り外す際は、上部のロックを外しながら、上にスライドさせて外して下さい。



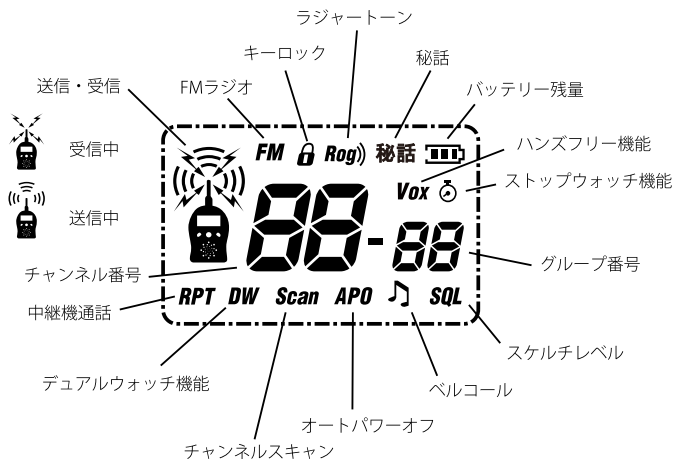
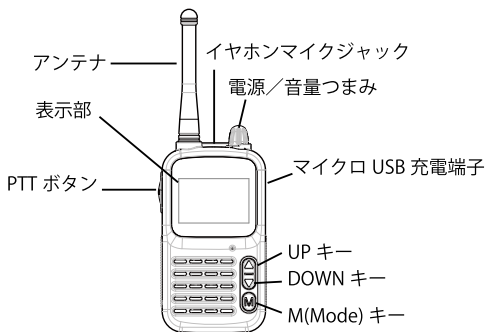
イヤホンマイクの取付

イヤホンマイクのプラグを本体上部のイヤホンマイクジャックに差し込みます。

イヤホンマイクは、別売りとなります。

注意：ケーブルを強く引っ張ったり、可動部分に過大な力で操作しますと、断線や破損の恐れがあります。

各部の名称

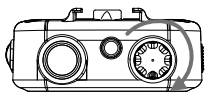


通話の仕方

相手側のトランシーバーと同一のチャンネルに合わせ、送信・受信を交互に切り替えながら通話します。

電源を入れて音量を調節する

“電源／音量つまみ”を時計回りに回して電源を入れます。電源が入るとLCDにチャンネル等が表示されます。通話時に電源／音量つまみを回して音量を程よい位置に調整してください。



音量は、時計回りに回すと大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

反時計回りに回しきると電源が切れます。

電源が入った時にLCDのバックライトが点灯しますが、バックライトは電源を入れた時や何かしらのキーが押された時に点灯します。点灯時間は約5秒間です。

チャンネルを選択する

“UP/DOWN” キーを1回押すとチャンネル番号が点滅します。チャンネル番号が点滅している間に“UP/DOWN”キーを押して希望のチャンネルを選択します。“PTT”スイッチまたは、“M”キーを押すと、表示しているチャンネルが決定され、点滅が点灯に変わります。点滅状態で何も操作が無い場合、約10秒後に表示中のチャンネルで決定され、点滅が点灯に変わります。



目的のチャンネルを選択する際に「通話チャンネルについて」を参考にチャンネルを選択してください。中継機対応のチャンネルの場合、RPTアイコンが点灯します。

注意：通話したい相手と同じチャンネルに合わせて下さい。

通話する（単信）

“PTT”スイッチを押すと送信を開始します。送信するとLCDの送信アイコンが点灯します。“PTT”スイッチを放すと送信アイコンが消灯し、待受け状態に戻ります。

相手からの信号を受信すると、LCDに受信アイコンが点灯し、スピーカーから相手の声が聞こえます。（連続通話時間、連続送信時間は最大3分です。）

通話する（中継機対応チャンネル）

予め中継機で使用するチャンネルとグループを選択しておきます。中継機への対応は、「周波数表」（27ページ）を参照してください。

a. 送信操作（呼び出し）

“PTT”スイッチを押して送信を開始し、押したまま中継器からの応答を待ちます。

中継機と正常に通信が確立されると、スピーカーから中継器接続音が「ピーピー」と鳴ります。その後“PTT”スイッチを押したままの状態での通信が開始されますので、通話を開始できます。

（呼び出しの後一旦“PTT”スイッチを放しても中継器接続音の後に“PTT”スイッチを押して通話を開始できます。）
通話が確立できない場合、PTTを押している間送信禁止音が鳴ります。

【注意】

中継機対応チャンネルでベルコール機能は使用できません。

b. 受信と応答

待受け状態で信号を受信すると、スピーカーから相手の声が聞こえてきます。

応答する場合、中継器から送信が終わり受信待ち受け状態になってから2秒以内に送信を開始してください。会話が成立していない（通話に入っていない）時、中継器が送信している間は応答は出来ません。

待ち受け状態になってから2秒以内に送信をした場合に、通話状態になります。通話待ち受け状態が2秒を超える場合、会話をする前に中継機への接続が再度必要になるため、「a. 送信操作」から行ってください。

電源を切る

電源が入っているときに、“電源/音量ノブ”を反時計回りに回しきると電源が切れます。

キーロック

間違えてキーを押さないように、キーをロックすることが出来ます。

“M” キーを長押し（3 秒以上）すると、キーロックアイコンが点灯し、キーロックが動作します。

キーロック中は、“M” キー（短押し）、“UP/DOWN” キーはロックされて動作しません。“PTT”、電源/音量つまみは動作可能です。

キーロックを解除するには、“M” キーを再度長押し（3 秒以上）して、キーロックを解除してください。

チャンネルスキャン機能

通話しているチャンネルを自動的に探します。

1. “UP/DOWN” キーを押して、チャンネル表示を点滅させます。



2. “UP/DOWN” キーを長押しすると、チャンネルスキャンが開始します。“UP” キーで今のチャンネルから順に進む方向にチャンネルをスキャンします。“DOWN” キーを長押しすると、戻る方向にチャンネルをスキャンします。
3. 受信チャンネルを見つけると、そのチャンネルで止まります。
4. 受信が終わると、再びチャンネルスキャンが始まります。
5. チャンネルスキャンを終了するには、“PTT” または、“M” キーを押してください。

グループモード機能

同じチャンネルを他のグループと同時に使用する場合、お互いの通話が混じり合って通信しにくくなります。このグループ機能を使用することにより、同じグループでのみ快適に通話することが出来ます。

1. “M” キーを押してグループ番号表示を点滅させます。



2. “UP/DOWN” キーで1～38の希望のグループを設定してください。
oF はグループ機能オフの状態です。
3. “PTT” スイッチを押すと、表示されているグループ番号が決定します。

注意：

- グループ番号が違う相手が送信しても、音声は聞こえませんが受信状態になります。その時に“PTT”スイッチを押しても「ピー」音が鳴り送信できません。受信状態のアイコンが出ていない時に送信してください。
- 設定したグループ番号は、全チャンネル共通で使用できます。

ハンズフリー機能

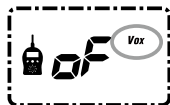
“PTT” スイッチを押さずに、マイクに向かって話すだけで、自動的に送信することが出来ます。話をやめると、自動的に受信待ち受け状態になります。

この機能は、受信中、確認音が鳴っている時、コールトーンが鳴っている時、スケルチ OFF の時、各機能設定中は使用できません。

バッテリー容量が少なくなると、この機能は動きません。早めに充電してください。

連続通話可能な時間は3分です。

1. “M” キーを3回押して、VOX を表示させます。



2. “UP”/“DOWN” キーで1～5の音の感度調整をします。5でより小さな音に反応します。ハンズフリー機能を使用しない時は、oF を選択してください。
3. “PTT” スイッチを押して決定します。

オプションのイヤホンマイクなどを使用すると、文字どおりの両手を離しての通話が可能です。

デュアルウォッチ機能

注意：中継機モードでは使用できません。

希望の2つのチャンネルで待ち受け状態になります。どちらかから通信があった場合は、そのチャンネルで通話ができます。通話終了後は、再度デュアルウォッチに戻ります。

1. “M” キーを4回押して DW を表示させます。



2. “UP/DOWN” キーで、待ち受けしたいもう一つのチャンネルを選択します。(1～20)

注意：“M” キーを押す前のチャンネルと、2で設定したチャンネルを待ち受けします。

3. “PTT” スイッチを押して決定します。

デュアルウォッチ中は、設定したチャンネルを交互に表示します。

デュアルウォッチを解除するには、2の操作で、1～20ではなく、oFを選択してください。

デュアルウォッチ中はチャンネルの変更は出来ません。チャンネルを変更する場合、一度デュアルウォッチを解除してください。

スケルチ設定

スケルチレベル（雑音をカットするレベル）を設定します。通常は3くらいに設定してください。oF にすると、常に受信状態になり、雑音が聞こえます。この雑音に埋もれた通信を聞く以外は oF にしないでください。

1. “M” キーを5回押して SQL を表示させます。



2. “UP/DOWN” キーで oF, 1 ~ 5 を設定します。通常は3くらいに設定してください。
3. “PTT” スイッチを押して決定してください。

注意：グループモードの時にスケルチをオフにすると、そのチャンネルで受信している全ての音声聞こえます。

秘話通話

秘話機能を設定すると、秘話設定していない人は通話を聞き取れなくなりませす。他の人に聞かれない大切な話などの時に設定すると便利です。

1. “M” キーを6回押して秘話を表示させます。
2. “UP” または “DOWN” キーを押して oN にする。
3. “PTT” スイッチを押して決定します。

秘話設定を解除するには、2の操作で oF にしてください。

注意：

- チャンネル番号、グループ番号、秘話設定は、通話する相手と合わせて下さい。全ての設定が一致しないと通話できません。
- チャンネル番号、グループ番号、秘話設定が一致すれば、他者にも通信が傍受できます。高度な機密を要する通話では、本機のご使用をお薦め致しかねます。

キートーンオン／オフ

操作音のオン／オフを設定します。

1. “M” キーを7回押して音符アイコンを表示させます。



2. “UP” または “DOWN” キーを押して ON にする。

3. “PTT” スイッチを押して決定します。

音符のアイコンが表示されているときは、キートーンがオンの状態です。

ラジャートーン

“PTT” を離して送信を終了するときに、送信終了音を鳴らして、送信の終了を相手に知らせます。

1. “M” キーを8回押して Rog)) を表示させます。



2. “UP” または “DOWN” キーを押して ON にする。

3. “PTT” スイッチを押して決定します。

オートパワーオフ機能

設定した時間に何も操作しないと、自動的に電源が切れます。電源の切り忘れを防止する機能です。

1. “M” キーを9回押して APO を表示させます。



2. “UP” または “DOWN” キーを押して希望の時間（1時間～6時間）またはオフ（oF）にする。

3. “PTT” スイッチを押して決定します。

注意：オートパワーオフで電源が切れた場合、本体の電源スイッチはオンの状態のままです。本機の電源を入れる場合は、一旦電源スイッチをオフの位置に戻した後、再度オンの位置に戻してください。

ストップウォッチ機能

最大 100 秒、1/100 秒の測定が出来ます。

1. “M” キーを 10 回押すとストップウォッチの画面が表示されます。



2. “UP” キーを押すと、スタートします。ストップするには再び“UP”キーを押します。
3. “DOWN” キーを押すと秒数がクリアされます。
4. ストップウォッチ機能を終了するには“PTT”を押します。

注意：99 秒を超えると、表示が 00 に戻り、そこからさらに秒数が進んでいきます。正しく計測できませんので、ご注意ください。

中継機対応チャンネル

本機は、中継機用 27 チャンネルに対応しています。中継機を使用すると通信範囲を大幅に広げることが出来ます。

1. “M” キーを 11 回押して RPT アイコンを点灯させます。



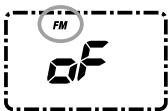
2. “UP/DOWN” キーを押してオン/オフの設定をします。
3. “PTT” スイッチを押し決定します。（約 10 秒間操作が無い場合、表示状態で決定され、通常表示に戻ります。

中継機対応チャンネルを使用するには、ON を選択し、RPT アイコンを点灯させます。

FM ラジオ

FM 放送を受信することが出来ます。

1. “M” キーを 12 回押すと FM が表示されます。



2. “UP/DOWN” キーで **oN** を表示してから “M” を押すと、FM ラジオモードになります。
3. “UP/DOWN” キーを押していくと、周波数が 0.1MHz ずつ変化します。“UP/DOWN” キーを長押しするとチャンネルスキャンを行い、放送されている周波数を見つけるとそこに留まります。再び “UP/DOWN” キーを長押しすると、チャンネルスキャンを行います。

FM 放送受信モードを終了するとき、
“M” キーを押してください。

注意：

- FM ラジオ受信中にトランシーバーが受信すると、FM ラジオは解除されて、トランシーバーの受信モードになります。交信終了から 10 秒ほど後に再び FM 放送受信モードに戻ります。
- 充電中に FM ラジオを受信する場合、FM ラジオの感度が著しく悪化する場合があります。

ベルコール機能

注意：通話中の時、または中継機モードの時は、コールトーンは送信されません。

“PTT”スイッチを2回素早く押すと、ベルコール機能が働きます。

ベルコール機能は、コールトーンを送信して相手を呼び出します。呼び出し音は5種類ありますので、あらかじめ、コールトーンの番号を割り振っておけば、誰からの呼び出しかが分かるようになっていきます。

注意：グループ番号が設定されているときは、同じグループ番号に設定していないと、コール音は鳴りません。

ベルコール音の設定方法

- 1 “M” キーを2回押して、CAを表示させます。それと同時に、数字部分が点滅します。



- 2 “UP/DOWN” キーでコール音を選択します。ベルコールを設定しない場合は、oFを選択してください。
- 3 “PTT” スイッチを押して確定します。

バッテリー残量を見る

バッテリー表示の3本のバーが、全て点いている状態であれば、問題なく使用することが出来ます。容量が少なくなると、バーの本数が少なくなります。その際は、注意して使用して頂き早めに充電してください。このバッテリー残量表示はあくまでも目安です。

バッテリーが無くなると、**LO BR**と表示され同時にアラームが数回なり、電源が切れます。

故障かな？と思ったら

もしも不具合が生じた場合、修理を依頼される前に下記の表により確認してください。該当する症状がない場合は、一旦バッテリーを外してリセット状態にしてください。

電源が入らない

電池が消耗している

⇒ 充電する。充電しても電源が入らない場合は、電池が寿命を迎えている可能性があります。電池寿命は充電回数で、およそ300～500回程度です。

受信できない

“PTT” が押されている

⇒ “PTT” から指を離す

音が出ない

ボリュームが絞られている

⇒ ボリュームを上げる

グループ番号が違う

⇒ グループ番号を合わせる

相手と通話できない

チャンネルかグループ番号が違う


⇒ チャンネル、グループ番号を合わせる

相手との距離が離れすぎている

⇒ 通話可能な距離で使用する

送信できない

受信アイコンが点灯している

⇒チャンネル番号を変更するが、受信アイコン () が消えるのを待つ

音声が聞き取れない

送信側または受信側、いずれか一方に秘話機能を設定している

⇒送信側/受信側ともに同じ設定にする

何も聞こえないのに受信アイコンが点灯する

同じチャンネルで別のグループ番号を使用している

⇒別のチャンネルに移動する

音量を大きくすると、プーという音がする

電池が消耗している

⇒電池を充電する。

表示がすぐ消える

電池が消耗している

⇒電池を充電する

送信しっぱなしになる

VOX (ハンズフリー機能) がオンになっている

⇒VOX をオフにする

中継機を使用した通話が出来ない

RPT（中継機）モードになっていない
⇒ RPT モードに設定する。

冬季電源を入れた直後画面が暗い

液晶画面の性質上、画面が温まるまでは暗い状態が続きます

操作を受け付けない

キーロックがかかっている
⇒ キーロックを解除する
内部コンピューターの異常
⇒ “MODE” キーを押しながら電源を入れ、工場出荷状態に戻す

それでも動かない時は

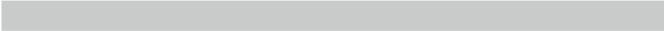
〒 194-0035
東京都町田市忠生 4-11-8
株式会社エフ・アール・シー サービス課
TEL: 042-793-7746
土日祝日及び弊社休業日を除く
【10:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:00】

周波数表

チャンネル NO. (単信)	送受信周波数	チャンネル No. (半複信) (中 継機使用時)	送信周波数	受信周波数
1	422.050 MHz	1	440.025 MHz	421.757 MHz
2	422.0625 MHz	2	440.0375 MHz	421.5875 MHz
3	422.750 MHz	3	440.050 MHz	421.600 MHz
4	422.0875 MHz	4	440.0625 MHz	421.6125 MHz
5	422.100 MHz	5	440.075 MHz	421.625 MHz
6	422.1125 MHz	6	440.0875 MHz	421.6375 MHz
7	422.125 MHz	7	440.100 MHz	421.650 MHz
8	422.1375 MHz	8	440.1125 MHz	421.6625 MHz
9	422.150 MHz	9	440.125 MHz	421.675 MHz
10	422.1625 MHz	10	440.1375 MHz	421.6875 MHz
11	422.175 MHz	11	440.150 MHz	421.700 MHz
12	422.200 MHz	12	440.1625 MHz	421.7125 MHz
13	422.2125 MHz	13	440.175 MHz	421.725 MHz
14	422.225 MHz	14	440.1875 MHz	421.7375 MHz
15	422.2375 MHz	15	440.200 MHz	421.750 MHz
16	422.250 MHz	16	440.2125 MHz	421.7625 MHz
17	422.2625 MHz	17	440.225 MHz	421.775 MHz
18	422.275 MHz	18	440.2375 MHz	421.7875 MHz
19	422.2875 MHz	19	440.2625 MHz	421.8125 MHz
20	422.300 MHz	20	440.275 MHz	421.825 MHz
		21	440.2875 MHz	421.8375 MHz
		22	440.300 MHz	421.850 MHz
		23	440.3125 MHz	421.8625 MHz
		24	440.325 MHz	421.875 MHz
		25	440.3375 MHz	421.8875 MHz
		26	440.350 MHz	421.900 MHz
		27	440.3625 MHz	421.9125 MHz

仕様

送受信周波数	422.050 ~ 422.300 MHz (単信 20 波)
	421.5750 ~ 421.9125 MHz (半複信受信 27 波)
	440.0250 ~ 440.3625 MHz (半複信送信 27 波)
電波形式	F3E, F2D
周波数安定度	± 2.5ppm 以下
受信感度	-9dB μ 以下 (12dB SINAD)
低周波出力	400mW 以下 定格電圧 8 Ω 負荷 1 0 %歪
電源電圧	DC3.7V (専用電池)
使用時間	約 24 時間
	測定条件：付属電池満充電の状態、低周波出力定格 400mW 時に送信 10 秒、受信 10 秒、待ち受け 80 秒の繰り返し動作
温湿度条件	動作時 -10℃ ~ +50℃ (但し結露しない事)
寸法	約 90 (高さ) x 50 (幅) x 19 (奥行き) mm
重量	約 100g (専用電池を含む)
付属品	バッテリー、ベルトクリップ、充電器、取扱説明書



保証規定

本製品は、当社において厳重な品質管理のもとに検査され合格したものです。万一ご購入後1年以内に製造上の不備に起因する故障が生じた場合には、当社が責任を持って無償修理いたします。

尚、次に記載した場合の故障については、保証期間内であっても有償修理となります。

- 1 使用上の誤り、不当な改造や修理などによる故障及び損傷
- 2 ご購入後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
- 3 火災、地震、水害、異常電圧、指定外の電源、電圧、周波数使用およびその他の天変地異などによる故障及び損傷
- 4 本保証書のご提示が無い場合
- 5 本保証書の所定事項が未記入、あるいは字句が書き換えられた場合
- 6 製造番号の改変もしくは取り外した製品
- 7 消耗部品（充電機、イヤホンマイク等）（注）

*本保証書は日本国内においてのみ有効です。（This warranty is valid only in Japan.）

（注）イヤホンマイクの保証期間は、正常な状態での使用中の製造上の不備に起因する故障が発生した場合、ご購入後一カ月となります。

修理を依頼される前に、電池の充電状態及び操作方法に間違いながいか、「故障かな?と思ったら」（24-26 ページ）を参照して、それでも異常が有る時は修理依頼してください。

修理に出す前に、お客様が設定したデータをお控えください。修理内容によっては、全てのデータが削除される場合があります。

本機の不具合により通話不能などにより発生した損害、被害につきましては弊社は一切の責任を負いませんので、ご了承ください。

■保証期間中は：

保証書を添えてお買い求めの販売店までご持参願います。

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

■保証期間が過ぎている時は：

お買い求めの販売店にご相談ください。

修理により製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

品質保証書

本製品は、当社において厳重な品質管理のもとに検査され、それに合格したものです。万一、御購入後1年以内に製造上の不備に起因する故障が生じた場合には、保証規定に沿って、当社が責任を持って無償修理いたします。

修理の際には、本製品をご購入頂いた販売店に、必ず本保証書をご持参のうえご依頼ください。本保証書のご提示が無い場合には、全額有償となりますので、本保証書は大切に保管してください。本製品は持込修理となります。

なお、イヤホンマイクに関しては、保証期間は御購入後1カ月となります。(正常な状態での使用中に、製造上の不備に起因する故障が発生した場合)

商品名	特定小電力トランシーバー NX-20R		
保証期間	1年間	購入電月日	年 月 日
お客様	ご住所		
	お名前		
販売店	住所		
	店名		

(印)

本保証書は再発行しませんので、大切に保管してください。

お客様へのお願い

お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をご記入ください。

ご販売店様へ

お買い上げ日、貴店名、住所、電話番号をご記入のうえ、本保証書をお客様へお渡しください。

F.R.C. CO.,LTD.

株式会社 エフ・アール・シー

〒194-0035 東京都町田市忠生4-11-18

URL: <http://www.frc-net.co.jp>



4-122-001

Printed in China.